

2024年度(令和6年度)学校評価自己評価表

培遠中学校区	校番 12	福山市立培遠中学校
最終更新日		2024年(令和6年)4月1日

I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	課題発見力, 論理的思考力, コミュニケーション力, 粘り強さ
<ul style="list-style-type: none"> 新しい時代に即した取組を行ってほしい。この先大変なことも多々あると思うが、全ては子ども達のために頑張ってもらいたい。 地域とのつながりを大切にする子ども達の成長を楽しみに、これからも連携、協力をお願いしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 小学校では学ぶ意欲はあるものの、全国学力学習状況調査における教科学力は若干下回っている。 中学校では、生徒会活動を中心に、学校の課題の改善に努める取組が充実してきた。 中学校における長期欠席の生徒は全体の10.5%である。(R4 全国平均 3.8%) 	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することができる
		中学校区として統一した取組等	<ul style="list-style-type: none"> 発信・表現の充実を踏まえた生活科・総合的な学習の時間の単元づくり 相手・目的意識をもたせた特別活動の充実 図書館を含めた学習環境の整備

III 自校

ミッション
知・徳・体の調和がとれ、自らの学校に誇りを持てる生徒を育てるとともに、地域・保護者との繋がりを深め、地域に愛され、信頼される学校教育の創造を目指す。
学校教育目標
夢を志にチャレンジ
～たくましく生きる力を身に付け、自らの進路をきり拓き、地域に貢献できる生徒を育てる～
現状
<p><児童生徒></p> <ul style="list-style-type: none"> 授業で分からないことはそのままにせず、分かるまで努力している生徒の割合は、1年 68.9%, 2年 64.9%, 3年 69.3%である。(前年度 1年 76.1%, 2年 66.7%, 3年 80.4%) 自分に良いところがあると答える生徒の割合は、1年 66.0%, 2年 74.3%, 3年 75.2%である。(前年度 1年 76.1%, 2年 74.8%, 3年 77.3%) 長期欠席生徒は全体の 10.5%である。(前年度 9.8%) ※ (R4 全国平均 3.8%) 日常生活で、生徒会活動を中心に問題発見、解決することが定着してきた。 一部の生徒で SNS を中心とした人間関係のトラブルが当事者同士で解決できず、大きなトラブルになることがある。(前年度より増えている) <p><授業></p> <ul style="list-style-type: none"> 総合的な学習では、SDGs の実現や取材活動を通して、問題解決学習が定着してきた。 一人一台の Chrome book を活用し、多様な授業方法や評価法にチャレンジしている。

育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	○課題発見力	○論理的思考力	○コミュニケーション力	○粘り強さ	
	Well-being の実現				
	めざす SDGs, 自分で決める, たんぽぽ魂, 生活五訓 (挨拶・時間・美化・服装・姿勢), 感謝の気持ちを持つを意識して生活し, これらの力を高めていく。				
めざす子ども像	中1	身の回りの事象について、課題を見つけることができる。	将来の進路希望に基づいて、その達成に向けて何をすればよいか考えることができる。	お互いの違いを理解し、協働することができる。	困った時にあきらめず、周りに聞きながらでも、現状を改善するために努力することができる。
	中2・3	身の回りの事象について、多面的・総合的に考えて、課題を見つけることができる。	将来の進路希望に基づいて、当面の計画を立て、その達成に向けて努力することができる。	チームとしての立場の違いを理解し、お互いを活かしながら協働することができる。	苦境に立たされた時に自暴自棄にならず、現状を改善するために努力することができる。
研究	テーマ	「生徒が創る学び」の実現 (Well-being の実現を目指して) ~ 粘り強さを育み、学びのつながりを実感できる授業づくり ~			
	内容等	<ul style="list-style-type: none"> 主体的な学び・深い学びを促す質の高い問い 学びを深める振り返り 			
めざす授業の姿	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒自身が「やってみよう！」という好奇心を喚起する課題設定のある授業 <ul style="list-style-type: none"> → 本時の振り返りから、次時の課題へつながっていく ○トライ&エラーを実践できる授業 <ul style="list-style-type: none"> → 「間違えた」「分からない」を安心して言える ○「記号接地」をテーマに学びを中心に据えた授業 <ul style="list-style-type: none"> → 知識技能を定着させ、知っていることを使って考えると分かることがたくさんあるという感覚を生徒が実感できる 				

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立培遠中学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)			
							□指標に係る 取組状況	力での達成 評価評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	力での達成 評価評価	総合 評価評価	改善方策
1	主体的に学ぶ力の育成	★	見直し	主体的に学ぶ態度を育む。	▽生徒が意欲的に探究できるような問いや単元づくりを行う。 ▽生徒が自分の学びについて振り返り、自己調整する場面を設ける。	△「もっと学びたい」「授業が楽しい」生徒の割合を80%以上にする。 △授業の中で、学んだことを振り返っている生徒の割合を80%以上にする。							
			見直し	自らの目標を設定し、学び方を考えながら学力の定着を図る授業づくりを行う。	▽自分で選んだり、決めたりすることができるような授業場面を設定する。	△自分で考えた方法で学んでいる生徒の割合を80%以上にする。 △授業で学んだことが使える生徒の割合を80%以上にする。							
1	自らに自信を持つとともに、感謝の気持ちを持つ心の育成	★	継続	自分で決め、実行することを通して自信を育む。	▽生徒主体となって、自分たちの生活をよりよくするための目標や活動内容を考え、誰もが過ごしやすい学校、誰もがやり直しができる学校にしていく。	△学級や委員会等で自分の役割を果たしている生徒の割合を80%以上にする。 △目標や努力することを決めて取り組んでいる生徒の割合を80%以上にする。							
			新規	感謝の気持ちをもった言動をしようとする態度を育む。	▽自分から感謝の気持ちを伝える機会を仕組む。	△自分から感謝の言葉(ありがとうなど)を発している生徒の割合を85%以上にする。							
1	自分の生活を律するたくましい心と体の育成		見直し	体を動かすことの楽しさに気づき、自ら体づくりに取り組む態度を育む。	▽体育の授業で、個々の体力向上のために、いろんなトレーニングを実践し、取り組ませる。 ▽主体的に参加できるイベントを継続する。	△運動やスポーツをすることが好きな生徒の割合を70%以上にする。 △体育的行事における生徒の満足度を90%以上にする。							
1	教職員がやりがいと充実感を持ち、元気に働くことができる環境づくり		見直し	教職員一人一人が主体的に学校運営に参画しようとする意識を育む。	▽分掌について目的と方向性を確認しながら企画立案する。 ▽各自が自己研修計画を作成し、授業等に取組ませる。	△時間外勤務時間が45時間を超える教職員を0人にする。 △仕事に意義とやりがいを感じている教員の割合を85%以上にする。 △本音を気がねなく発言でき、個性が認められているという実感がある教員の割合を70%以上にする。							

1	地域・保護者から信頼され、通わせてよかったと思われる学校づくり	見直し	地域・保護者からの満足度の高い学校運営を行う。	▼積極的に学校の活動を地域・保護者に発信する。 ▼地域の公園の管理や環境活動など持続可能なまちづくりを教育課程に位置付ける。	△学校の取組がよくわかると回答する保護者の割合を80%以上にする。 △子どもは学校生活に満足していると回答する保護者の割合を80%以上にする。 △地域を住みよいまちにしていくために貢献していると答える生徒の割合を70%以上にする。														
---	---------------------------------	-----	-------------------------	-------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。